



☀	なし
---	----

食品団地	9月商況はほぼ前年並みであった。食品製造用の原材料の値上がり予定があり、今後の収益低下が心配される。中小企業の食品値上げは企業収益の確保のためにほとんどの企業が取組んでいるが、小売業も厳しい経営環境で、価格転換は難しい。
テントシート	原材料高騰分の、販売価格へのスムーズな転嫁が厳しい状況が続くと思われる。
木製品素材生産	9月は天気も良かったが、出材量は例年と比べ減少している状況。丸太価格についても、依然として製材品の動きが鈍く、全体的に横ばいで推移している。今後の見通しも現状が続くと思われるが、秋の需要回復に期待。
製紙(家庭紙)	紙製品全体では、生産量は昨年同月比で上回ったが、販売量が下回っている。その中で、ティッシュペーパー・トイレペーパー及びその他家庭用雑種紙の動きが良い。
製紙(手すき和紙)	全体的に昨年同月比では少し上回った。このまま継続的に良くなることを願う。今後の需要回復に期待したい。
コンクリート製品	対前年同月比 59.7%。四半期の公共事業の発注が少ない影響と思われる。来月から通常に戻る見込み。
刃物製造	業況は昨年とほとんど変わらない。ただ、販売価格が値上がりしたものの、売上が変わらないということは数量的には落ちてしまったと言える。相変わらず、供給が遅れがちで悩ましいところである。
機械団地	原材料費や人件費等のコスト高が影響し、売上が伸びても収益は上がらない状況が続いている。団地内の業況に特に変化はみられない。
船舶製造	受注・売上ともに引き続き順調だが、全体的に人手不足感がある。人手不足の問題は、今月に限った問題ではなく、組合員ごとに事情は違うが、主に「退職者が出ても補充ができない」、「今後後継者をどうするか」などの悩みがあり、中小製造業の将来は厳しく感じる。
珊瑚装飾品製造	9月度の取引額は前年同月比103%となり、5カ月ぶりに前年を上回る結果となった。
卸団地	物価高による全体的な経費増加と労働者不足の影響から、一部不採算業務を廃止する動きが多くなってきた。時代背景を考えると、当然の流れであるが、今後も増えてくる動きだと思う。景気回復は感じられない。仕入れ商品・ガソリン代等値上げが続くものの、販売価格に十分転嫁できていない。
青果卸売	前年同月比の入荷状況について、野菜:数量90%・金額94%・キロ単価104%、果実:数量84%・金額103%・キロ単価122%。7月と比べると入荷数量の減少に比べて金額の上昇具合が低いと思われる。量販店・飲食業筋ともに前年同月割れと推測される。
生鮮魚介卸売	当月の売上高は引き続き減少している。台風の影響で数日間、魚の入荷が少なかった。カツオは順調に入荷しているが、マグロが少ない。
各種小売(土佐市)	例年9月は、小売店は閑散期となる傾向にあり、厳しい状況が続いている。職種に関係なく大型店には太刀打ちできないと思われる。

中古自動車小売	全体の相場高騰は落ち着きを取り戻したものの、中高年式車は変わらず上昇傾向にある。販売面では、高年式車の注文が多いが近県での仕入れが難しい車両もあり、輸送料等の経費が増加する場合は収益確保が厳しい。
商店街(高知市)	駐車場状況について、利用台数は前年の107.5%(1,736台増)、料金収入は前年の105.5%(425千円増)。9月は中旬より2週連続での3連休となり中央公園などでのイベントに来街者が多かったことや、29日には商店街で、パリオリンピックレスリング 金メダリストの櫻井つぐみ選手と清岡幸太郎選手の凱旋パレードが開催されたことで大勢の人たちが沿道に詰めかけ、快挙を祝ったことなどで、商店街に賑わいがあった。
商店街(四万十市)	中村区校の生徒が授業の一環で、商店街について勉強しに来てくれた。「よさこい四万十」は参加チームが過去最多となり、開始時間を例年より早めた。まだ課題はあるものの、毎回試行錯誤してより良いイベントを目指している。
旅行業	組合クーポン前年同月対比68%、全旅クーポン合算前年同月対比103%。秋の観光シーズンに期待している。
IT事業	売上は先月に続き前年比で減少した。個別の単価は横ばいの印象だが例年に比べ件数が大幅に少なかったようだ。次月以降の売上になった案件もあるようなので、10月から年末にかけての売上アップに期待したい。引き続き勉強会の開催など組合員全体のスキル向上を図る取組みに注力したいと考えている。
電気工事	組合の施工する電力引込線工事量は、前年同月比219.16%となった。前月に続いて高知・香長地区が大幅に増加した。
タクシー	実働1日1車当りの前年同月比運送収入:104.6%、輸送回数:98.7%、実働率:50.5%。運転者不足が続いている中、9月にハローワークの協力でタクシードライバーの仕事を紹介するセミナーを開催し、30名程の参加があった。少しずつ営業収益も伸びているので、ドライバーになってくれる人材が現れることを期待している。

酒類製造	ほぼ前年水準で数カ月横ばい状態である。消費の回復は依然厳しい状況。新酒の時期、また、イベントも盛りだくさんのこの季節に日本酒のおいしさを発信したい。
製材	住宅需要は依然低調で、前年に比べて荷動きは鈍く、売上は減少傾向。
建具	個人住宅・店舗・公共工事すべてが少なかった。厳しい状況である。
印刷	8月は低調だったが9月は持ち直し、売上増加、設備操業度上昇という良い結果となった。県外需要は好調を維持しているが、一部の業界で落ち込みも見られた。県内需要も全般に持ち直し傾向が見られる。
生コンクリート製造	9月度の全組合員の出荷量は、対前年比101.8%であった。また、4月からの累計出荷量は、対前年比90.8%で、9月単月及び4月からの累計は若干増加傾向にある。地域的には、嶺北及び中央地区の一部が対前年比増加傾向を示しているが、東部・中部・幡多地区が減少傾向にある。
電気機械器具小売	9月度は全商品平均で前年比94%。特にテレビは前年比86%。前年比でプラスとなった商品は0だった。
ガソリンスタンド	9月の原油価格は下落気味だが、補助金も下がったため仕切り価格は逆に小幅な上昇が見られた。補助額は9月末で9.7円/Lと10円を切っている。イスラエルなどの競争により原油価格の動きは読みづらい状態が続いている。国内では、岸田内閣が変われば原油価格も変わるかもしれないが、今のところ補助金は12月末までということには変わりはない。
商店街(安芸市)	今年も敬老の日に合わせて、安芸地区に住む高齢者(約1,300名)を対象に安芸本町商店街限定商品券(500円分)を発行した。
旅館・ホテル	「らんまん」効果が薄れ、ツアー団体の催行率が低下するなど、昨年と比較して業況は悪化している。高知市中心部では駐車場不足が大きな課題となっており、休前日等の繁忙日は近隣駐車場の確保や駐車場への送迎などの対策にも限界があるなど、対応に窮している。この先数年間で複数の宿泊施設が新規営業を開始する見込みを鑑みると、さらに状況が悪化することは明白である。
飲食店	当月の売上高は5カ月連続で前年同月を下回った。コロナ禍以前との売上比較は約8~9割。観光による集客があるが県内客は少ない。県西部では特に集客が減少している。前年度同月に比べ、さらに物価は高騰。光熱費・仕入れ価格・人件費ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。そもそも物価高により県内の消費者の購買意欲が相当下がっており、集客が覚束ない。
クリーニング	売上が好調な企業と減少傾向にある企業とで二極化している。総じて売上高は横ばい。入荷点数は減少傾向。新たな品目、サービスを加えるなど対応をとる企業もある。資材商の情報では、資材価格の上昇は依然続いており、出荷数は増えないとのこと。資材他物価の上昇により、収益状況は悪化している。
一般土木建築工事	令和6年9月分の県下の生コンクリート総出荷量は、前月比145.1%、前年同月比101.8%、前年同月累計比90.8%と依然低調。そのうち、共同販売事業に係る出荷量は88436.35m ³ で全体の34.32%と低調で危機的レベルにある。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事については継続しているが、高速道路の整備以外に大型工事が見込めない状況。生コンクリート販売単価については、主に賃金アップの原資としてm ³ 当たり1,000円の値上げを5月契約分より実施。また、小型車搬送については値上げ実施。値上げ分の積算単価反映は、小型車については物価調査会も10月実施。1,000円アップについては、物価調査会も10月も見送る形となった。また、高知市の組合再生については進行中であるが、具体的な進展は未だ見えない状況。
一般貨物自動車運送	燃料価格は1円を上回る値上げとなった。10月は石油元売り主導でコスト転嫁として価格に1円ないし2円の上乗せが決まっており、月末円相場が円安に振れたこともあざらなる値上げが懸念されている。荷動きも上向きとは言えず、組合実績も昨年度を下回った。